

## 荒川区地球温暖化対策実行計画パブリックコメントの 実施結果について

- 1 意見募集期間：令和2年12月11日（金）～12月25日（金）
- 2 閲覧場所：エコセンター2階環境課窓口、情報提供コーナー、  
区ホームページ
- 3 意見提出者：23名（電子申請19名、FAX4名）
- 4 意見の内訳

計画全般についての意見			3件
計画の具体的な内容に対する意見			32件
内 訳	第3章	荒川区の概況と温室効果ガス排出量の状況	1件
	第4章	地球温暖化防止に向けての評価と課題	2件
	第6章	目標達成のための基本施策と重点プロジェクト	28件
	第7章	気候変動による影響への適応策	1件
その他			1件
合 計			36件

- 5 意見の取扱い

	計画に反映する（内容の充実）	4件 (2か所)
	既に盛り込んでいる	28件
	意見・要望としてお聞きする	4件
合 計		36件

- : 計画に反映する（内容の充実）
- : 既に盛り込んでいる
- : 意見・要望としてお聞きする

## 提出された「意見の概要」とそれに対する「区の考え方」

### 計画全般について

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
1	<p><b>【各種宣言】</b>            現在、地球温暖化、気候変動を含む環境問題は非常に深刻な段階まで来ている。近年は毎年のように甚大な被害をもたらす巨大台風、豪雨、災害級の猛暑などが頻発しており「気候危機」と表現すべき事態である。地球温暖化を抑止し、これからの世代に美しい地球を残すためには、今すぐ、これまでにない大規模な変革が必要である。</p> <p>これらを踏まえ、環境省で推進している、2050年までに排出二酸化炭素の量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ宣言」を表明して欲しい。また、「気候非常事態宣言」を表明し、区民に周知して欲しい。</p>	<p>令和3年度の特別区長会調査研究機構の調査研究テーマが「ゼロカーボンシティ特別区に向けた取り組み」に決定しており、CO 排出量ゼロを目指すことは各区共通の目標と認識しております。調査研究には荒川区からも職員が参加する予定であり、区民の皆様への周知方法等について、工夫します。</p> <p>加えて、「脱炭素」社会への転換は世界的潮流であり、今後のわが国における脱炭素社会実現へ向けた法改正等も見据え、温暖化対策を進めていきます。</p>	
2	<p><b>【各種宣言】</b>            世田谷区などと同じように、「ゼロカーボンシティ宣言」を表明して欲しい。</p> <p>CO 排出許容量の観点から見て、私たち若者の未来は、今の自治体の取り組みに左右される。</p>		
3	<p><b>【脱炭素社会の実現】</b>            脱炭素社会は地球上必須課題であり、日本は大いに削減運動をすべきである。また、一自治体組織でも努力してビルドアップすれば、それなりの効果をもたらす事ができる。</p>	<p>国において令和2年に「2050年までに脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言されました。荒川区でも低炭素社会から脱炭素社会へ転換していく方向性を具体的に示すため、「地球温暖化対策実行計画」を策定し、温室効果ガス削減に向けた取り組みを推進していきます。</p>	

### 第3章荒川区の概況と温室効果ガス排出量の状況

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
4	<p><b>【CO 排出係数】</b>            P30 に記載されているとおり、CO 排出係数の低い電力を選択することが重要と考えるが、そのための取り組みが具体的に読み取れない。どのような施策により CO 排出係数を低下させていくのか。</p> <p>区が率先して再生可能エネルギー業者を推奨するなど、取り組んでもよいと思う。</p>	<p><b>【P56 みんなでいっしょに自然の電気】</b>  <b>【P66・67 区役所の環境配慮率先行動の推進】</b>            荒川区では、平成24年度から清掃工場の廃熱を使って発電した電力を区立の全小中学校で使用しているほか、原則として全ての区施設を対象に地域電力事業者から排出係数の低い環境に配慮した電力調達を行っています。</p> <p>今後も東京都等と連携し、家庭や事業所における再生可能エネルギーを中心とした小売電気等の切り替えについての周知を図るなど、一層の取組を進めます。</p>	

- : 計画に反映する（内容の充実）
- : 既に盛り込んでいる
- : 意見・要望としてお聞きする

#### 第4章地球温暖化防止に向けての評価と課題

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
5	<p>【前計画における削減目標の達成状況と評価】</p> <p>P38 に、これまでの荒川区の取り組みによりエネルギー消費量を 27.6%、CO 排出量を 5.0%削減したとあるが、具体的にはどのような取り組みを行ったのか。</p>	<p>【P36～37 家庭・事業所・まちづくり・協働での取り組み】</p> <p>区民の皆様の日々の環境配慮の取り組みと併せて、「エコ助成」や啓発事業、まちづくりにおけるLED街路灯の導入など、さまざまな取り組みを推進することでエネルギー消費量とCO 排出量の削減につながったと考えています。</p>	
6	<p>【「脱炭素社会」へ転換していく上での課題】</p> <p>P40 に家庭での太陽光発電設備の設置や家庭用燃料電池（エネファーム）、家庭用エネルギー管理システム（HEMS）などの設置が伸び悩んでいるとあるが、伸び悩んでいる根本的な理由は何か。丁寧に説明していく、促進していく、ということは認知度の向上＝設置の増加につながるのか。</p> <p>また、無理のない範囲で、という記載があるが、ある程度ライフスタイルの変化を促す活動も必要なのではないか。</p>	<p>【P40】</p> <p>ご指摘の設備導入に慎重な理由としては、機器を設置するために一定の広さを確保する必要があったことが一因と考えられます。現在マンション等向けに小型化された製品も商品化されており、普及への周知を行っていきます。</p> <p>太陽光発電設備やエネファーム等、省エネ機器の導入に際しては、国や都も助成制度を設けており、区のエコ助成と組み合わせることで、より費用負担の軽減を図ることができます。今後も国や都の制度を含めた助成内容をPRしていきます。</p> <p>また、省エネ行動は継続性も必要なことや、猛暑日などは、まずは命を守る行動が重要なことから、健康に配慮しながら取り組んでいただくとともに、省エネを価値あるものとしてライフスタイルの変容を促す取り組みについても、併せて周知していきます。</p>	

#### 第6章目標達成のための基本施策と重点プロジェクト

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
7	<p>【家庭の省エネルギー行動のきっかけづくり】</p> <p>省エネアドバイザー制度は省エネ診断に変更されている。自分自身で取り組みやすいもの、習慣化しやすい取り組みにしていく必要がある。</p>	<p>【P55 家庭の省エネルギー行動のきっかけづくり】</p> <p>省エネアドバイザー制度から省エネ診断に変更したことにより、より利用しやすい分かりやすい仕組みになりました。</p> <p>既に周知方法として行っているあらかわ区報や町会回覧板、区ホームページなどの様々な媒体を活用した省エネルギー行動の啓発や家庭向け省エネセミナー制度の利用者の拡大について、更に周知をはかり、自分自身で取り組みやすく習慣化しやすい取り組みを促進していきます。</p>	

：計画に反映する（内容の充実）  
 ：既に盛り込んでいる  
 ：意見・要望としてお聞きする

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
8	<p>【家庭の省エネルギー行動の促進】            緑のカーテン講座や省エネセミナーについては、「新しい生活様式」に沿った形かつ自宅で視聴できる環境があると、現地会場に向かうことが出来ない層も内容に触れることができると思う。</p>	<p>【P55：新型コロナウイルス感染症の流行と地球温暖化について(その )に追記しました】            区では SNS やオンラインを活用した啓発事業などを全庁的に進めており、P55 に「オンラインを活用した啓発」について、文言を追記しました。            また、シェアサイクル等、「新しい生活様式」に適合した事業も実施しています。</p>	
9	<p>【再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】            コロナの終息が見えない中で、集まる機会などが少なくなり街なか避暑地などできなくなっている。家庭では省エネ性能の高い機器導入や再生可能エネルギー由来の小売り電力への転換は、区の積極的 PR など行うことが求められる。</p>	<p>【P56 再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】            省エネ性能の高い再生可能エネルギー・省エネルギー機器の導入については、今後もあらかわ区報やホームページ、SNS 等を活用し、家電の買い替え時期の省エネ効果等に関する情報を発信するとともに、東京都と連携し、再生可能エネルギーを中心とした小売電気等の切り替えについて周知していきます。</p>	
10	<p>【再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】            区として公的施設の再生可能エネルギー由来の小売り電力への切り替えを促進し、家庭にはお得 PR を進めることで CO 削減につなげて欲しい。</p>	<p>【P56 再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】            【P66 区役所の環境配慮率先行動の推進】            荒川区では、平成 24 年度から清掃工場の廃熱を使って発電した電力を区立全小中学校で使用しているほか、原則として全ての区施設を対象に地域電力事業者から排出係数の低い環境に配慮した電力調達を行っています。また、家庭や事業所に対しては、東京都と連携し、再生可能エネルギーを中心とした小売電気等の切り替えについて周知していきます。</p>	
11	<p>【再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】            【区役所の環境配慮率先行動の推進】            風力や太陽光を使った、再生可能エネルギーへシフトして欲しい（まずは公共施設、学校から徐々に）。また、荒川区民への太陽光パネル設置の助成金補助を推進して欲しい。</p>	<p>【P56 再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】            【P66 区役所の環境配慮率先行動の推進】            荒川区では、平成 24 年度から清掃工場の廃熱を使って発電した電力を区立全小中学校で使用しているほか、原則として全ての区施設を対象に地域電力事業者から排出係数の低い環境に配慮した電力調達を行っています            また、太陽光パネルやエネファーム等の設置費用の一部を助成する「エコ助成」も行っており、今後も、あらかわ区報や町会掲示板、SNS 等を活用して制度の内容を周知していきます。</p>	

- : 計画に反映する(内容の充実)
- : 既に盛り込んでいる
- : 意見・要望としてお聞きする

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
1 2	<p>【再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】</p> <p>家庭用の給湯器等の導入助成金を推進して欲しい。また、企業と協力して住民説明会を開催して欲しい。</p>	<p>【P56 再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】</p> <p>荒川区では、地球温暖化防止及びヒートアイランド対策の推進とともに、災害時の補完用電力を供給できる再生可能エネルギー利用機器等の整備促進のため、エネファームや太陽光発電設備等を対象としたエコ助成制度を実施しています。省エネ設備については国や東京都も助成制度を設けており、併せて活用することでより費用負担の軽減を図ることができると考えています。</p>	
1 3	<p>【再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】</p> <p>家庭への太陽光発電設備、家庭用燃料電池、家庭用エネルギー管理システムはいずれも高価で取り組みにくいいため、助成金を増やすなど工夫が必要である。</p>	<p>今後もあらかわ区報や町会掲示板、ホームページ、PRパンフレット、SNS等を活用して、再生可能エネルギー・省エネルギー機器の導入、家電の買い替え等を促進するための情報を発信するとともに、エコ助成制度の充実を図り、家庭向け省エネセミナーなどの場でも周知していきます。</p>	
1 4	<p>【再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入促進】</p> <p>省エネ性能の高いエアコンへの買い替え助成を行ったが、省エネ率 114%以上の機器は高価な商品が多く、助成率 4 分の 1、上限 30,000 円の補助金があっても、積極的な買い替えの動機付けにならない。市場価格を考えると補助金の増額を必要がある。</p> <p>コロナの影響で街なか避暑地などの良い施策が実施しにくいことを考えると、環境課単独ではなく高齢者施策として共同で補助金を出すことも有効かと思う。</p>		
1 5	<p>【3Rの推進】</p> <p>レジ袋が有料化され、買い物にエコバッグ持参は当たり前になった。さらに売る側のトレー廃止など発生抑制につなげていくことが求められる。</p> <p>荒川区の資源リサイクルは地域で定着して、23区内でトップであることは区民の意識づけが進んでいることと、身近なところに回収拠点が設置されていることが効果を高めている。回収ボックスの出し入れなど拠点を受け持ってくださいの方々の協力無しにはここまで進んでこないと考える。</p> <p>これからも定着していけるよう拠点運営の支援などをすすめていただきたい。</p>	<p>【P56 3Rの推進】</p> <p>荒川区では古紙、ペットボトル、食品トレー等の資源について、リサイクル事業者と区民と協働して、全町会で集団回収を実施しており、その結果、区民一人あたりの資源回収量は 16 年連続で 23 区中 1 位となっています。</p> <p>3Rの推進は資源の有効活用の観点から非常に重要であり、ひいては地球温暖化防止につながる取り組みの一つと考えています。そのため、引き続き「荒川区一般廃棄物処理基本計画」に基づき、関係団体等との協議を進め、国や都等と連携し、3Rの推進、プラスチックごみ、プラスチック製品の削減を推進していきます。</p>	
1 6	<p>ゴミの細分化回収、企業と連携しながらのリサイクルを推進して欲しい。また、ゴミを出さない仕組み作り(地域のリサイクルコミュニティ活性化・量り売り店の推進)を推進して欲しい。</p>		
1 7	<p>家庭ごみの排出量削減は販売する側の取り組みも伴う必要がある。野菜、果物等はトレーや袋入りの販売を減らし、一個単位で販売すると、ごみの排出量が減る。</p>		

：計画に反映する（内容の充実）  
 ：既に盛り込んでいる  
 ：意見・要望としてお聞きする

	<p>また、肉・魚等は個人商店での購入の場合トレーを使わないため、ごみの発生抑制につながる。</p> <p>ごみ削減のために個人商店で買った場合の配達料助成などに取り組むと減量化に役立つのでは無いか。</p>		
NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
18	<p>【家庭での省エネルギー行動】</p> <p>荒川区は高齢者世帯が多い。暖房器具にしても石油ストーブよりエアコンの方が主旨に沿った結果が出るし、リスク面でも安心できる。そのため、電気代の圧迫は否めないが、生活向上との整合はどのように図ればよいのか。</p>	<p>【P62～63 家庭での省エネルギー行動】</p> <p>「家庭での省エネルギー行動」に示したとおり、生活の質を落とさずに無理なく実施できる取り組みもたくさんあり、家計費の節約に繋がる場合もありますので、それぞれの生活にあった無理のない取り組みについて周知していきます。</p>	
19	<p>【家庭での省エネルギー行動】</p> <p>この表に記載されている内容はとても分かりやすく具体的で、ぜひ多くの人に知ってほしいと感じた。お金が絡むとぐっと関心も高くなるので、何が無駄かを周知することはとても良い。</p> <p>ただし、高齢者が冷房を我慢して熱中症で亡くなるといったニュースを見ると、必要と無駄の住みわけが難しいため、正しく理解し実践できるような周知をしてほしい。</p>	<p>【P62～63 に追記しました】</p> <p>【家庭での省エネルギー行動】</p> <p>家庭で実践できる省エネ行動は、継続性が必要であることとあわせ、昨今の猛暑日等、まずは命を守る行動が大切な事から、健康に配慮しながら取り組んでいただくことが重要と考えています。</p> <p>表でお示ししている省エネ行動については、イラスト等で確認できるように「家庭の省エネハンドブック」の URL と QR コードを追加します。</p> <p>また、今後区報やホームページ、SNS 等を活用し、削減できる CO 排出量や費用についても周知していきます。</p>	
20	<p>【家庭での省エネルギー行動】</p> <p>実生活で生かしたい情報が多くあったため、是非イラスト化して視覚的にも分かりやすい形にしてほしい。</p>		
21	<p>【家庭での省エネルギー行動】</p> <p>エネルギーや温室効果ガスの削減目標があげられているが、荒川区に住んでいる人や働いている人がどのような取り組みをすれば、どのくらいの削減効果があるのかがわかるといいと思う。</p>		
22	<p>【事業所で取り組む温室効果ガスの削減】</p> <p>世界は 10 年後にはガソリン車を生産しなくなるため、日本の産業そのものも転換を迫られる。区内事業所も、区民も準備していかななくてはならない。</p> <p>乱暴な推測だが現在運行しているガソリン車は 10 年後には廃棄されることになっていくとなると、膨大な廃棄物が生まれる。再利用のシステムづくりは官民あげて取り組むことなど、対応が求められる。再生利用できるようになれば大きな産業に育てられる。</p>	<p>【事業所で取り組む温室効果ガスの削減】</p> <p>温室効果ガス排出の実質ゼロは、農業革命、産業革命、情報革命に次ぐ第 4 の革命とも言われ、現在様々な分野で転換が求められています。電気自動車、燃料電池車の導入、充電ポート等のインフラ整備について、国や東京都と事業者が連携して取り組んでおり、区はこれらの動向や整備手法について積極的に周知していきます。</p> <p>また、車を廃棄する際については、使用された鉄やプラスチックを廃棄・再利用するための法律に基づいて適正に事業者がリサイクルを行っていることを認識しています。</p>	

: 計画に反映する(内容の充実)

: 既に盛り込んでいる

: 意見・要望としてお聞きする

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
2 3	<p>【事業者の省エネルギー行動の促進】</p> <p>エコアクション 21 については区内事業所の9割が従業員30人未満である事を考えると、企画、実施、報告書作成などの手間がかかることで取り組みにくい。支援策を検討する必要があるのではないか。</p>	<p>【P70 エコフォワード宣言】</p> <p>エコアクション 21 認証の取得は、従業員の環境配慮や省エネ意識の向上等の成果を得る事ができる一方、取得までの手続きや費用の面でややハードルが高いといった声も聞こえます。</p> <p>そのため今年度より、事業者が簡易な手続きで申請できる「エコフォワード宣言」の受付を開始し、事業者の環境活動を区が応援し、活動の輪を広げていく事業を展開しています。</p>	
2 4	<p>【区役所の環境配慮率先行動の推進】</p> <p>家庭や事業所に啓発するにあたり、まずは区立施設がモデルとなり、積極的にゼロエミッションに向けた取り組みを実施するとよい。区立施設について、どの程度省エネルギー化が進んでいるのか、太陽光発電等を実施しているのか、再生可能エネルギーの利用状況はどうかなど、実施状況や実施計画、効果や検証状況を計画内に盛り込むことでより具体性がでるのではないか。</p>	<p>【P66～67 区役所の環境配慮率先行動の推進】</p> <p>荒川区では、平成 24 年度から清掃工場の廃熱を使って発電した電力を区立全小中学校で使用しているほか、原則として全ての区施設を対象に地域電力事業者から排出係数の低い環境に配慮した電力調達を行っています。</p> <p>これらの取り組み状況や成果は「地球温暖化対策報告書」として毎年公表しており、今後も情報公開に努めていきます。</p>	
2 5	<p>【新型コロナウイルス感染症の流行と地球温暖化対策について】</p> <p>P71 に示されている通り、環境計画のみならず、区のすべての計画について、コロナの影響を検証し計画を見直す必要があるかもしれない。</p> <p>例えば、啓発の方法について、イベントや街中避暑地等不特定多数が集まる事業も今後実施しづらくなるだろう。そのような中での啓発について検証が必要である。</p> <p>コロナについて区民の関心が高まる中、区役所への注目も例年以上に集まっているうちに、新たな啓発活動を行ってほしい。</p>	<p>【P55】</p> <p>集客型のイベント等については、コロナ禍での教訓を生かし、感染対策に万全を期す必要があると考えています。</p> <p>そのため、既に参加人数を縮小した講演会や展示会、インターネットを活用したイベント等、実施方法を工夫した取り組みを進めています。</p> <p>今後も、シェアサイクルのように「新しい生活様式」に適合した事業や助成事業のような啓発イベント等の代替となる事業についても、実施していきます。</p>	
2 6	<p>【環境にやさしいまちづくりの推進】</p> <p>重点プロジェクトになっている緑のカーテン以外にも家庭で気軽に取り組める緑化対策があれば、参加のハードルが下がるのではないか。</p>	<p>【P73 環境にやさしいまちづくりの推進】</p> <p>これまでの取り組みに加え、花と緑の基本計画に基づいた緑化大賞やエコ助成制度での屋上緑化、壁面緑化等、家庭で取り組める緑化対策の支援策を周知していきます。</p>	
2 7	<p>【環境にやさしいまちづくりの推進】</p> <p>断熱性の高い窓への変更への助成を増やして欲しい。利用時間の長い部屋だけでも導入していくなど、取り組みやすい単位への助成があれば費用負担の面でも取り組みやすいのではないか。</p>	<p>【P61・P73 環境にやさしいまちづくりの推進】</p> <p>エコ助成の中で高断熱窓への改修について助成を行っています。今後もエコ助成の啓発や事業内容の見直しを行いながら、周知していきます。</p>	

：計画に反映する（内容の充実）  
 ：既に盛り込んでいる  
 ：意見・要望としてお聞きする

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
28	<p>【環境にやさしいまちづくりの推進】            遮熱、断熱の促進と、緑化推進のために屋上やベランダ等の緑化への支援、適した材料等のアドバイス事業を進めてほしい。</p>	<p>【環境にやさしいまちづくりの推進】            荒川区では一定規模以上の開発行為等を行う場合は条例等に基づき、緑地を整備することとしており、緑化の推進に取り組んでいます。            また、エコ助成の中で高断熱窓への改修や屋上緑化、壁面緑化等について支援を実施しており、これらの取り組みについて、今後も区報やホームページに加え、SNS等も活用して周知していきます。</p>	
29	<p>【水素社会の実現に向けた取り組みの推進】            ガスステーションのスペース等を活用し水素ステーションを増加させて欲しい。</p>	<p>【P73 水素社会の実現に向けた取り組みの推進】            現在、国・事業者等で水素ステーション等のインフラ整備や燃料電池自動車の普及に向けた取り組みが進められており、区ではこれらの動向を踏まえ、周知等を図っていきます。            また、事業者の協力を得て、区内の水素ステーションを環境学習に取り入れます。</p>	
30	<p>【環境交通の推進】            公共交通機関は環境に配慮されたものであると思うが、そのほかの交通についても、積極的に環境に配慮していくべきである。例えば、ごみ収集車、高齢者がデイサービス等の送迎で利用している車、幼稚園の送迎バス等、区役所が直接かかわっていないものもあるかもしれないが、多くの人々が利用している交通機関についても、環境に配慮したものであれば補助金を出す等支援をしていくことも検討しても良いのではないか。</p>	<p>【P74 環境交通の推進】            本庁舎で主に使用している庁有車については、荒川区グリーン購入推進方針に基づき、環境負荷の低い車両を導入しています。また、清掃車の一部やパトロールカー等にはハイブリット車等、環境に配慮した車種の導入に努めています。            併せて、環境に優しい移動手段として、コミュニティバスさくらの運行やカーシェアリングの普及活動、シェアサイクル等を実施しており、今後も区の環境基本条例に明記した「環境交通」への取り組みを推進します。</p>	
31	<p>【環境交通の推進】            電気自動車（EV）の普及に力を注いで欲しい。</p>	<p>【P73～74 環境交通の推進】            公共交通機関の省エネ化や電気自動車、水素自動車等の普及について、国や都と連携しながら充電ポートの拡充や充電体制の充実について普及促進していきます。</p>	○
32	<p>【協働：環境意識の向上・環境教育の充実】            様々な世代が、森林のもつ力や生物多様性の重要性等を体感するために、森林に触れる機会は多くあって欲しい。</p>	<p>【P80 協働：環境意識の向上・環境教育の充実】            荒川区では、小学校高学年の児童を対象とした通年の環境学習プログラム「エコジュニアクラブ」や自然体験事業等により、交流自治体との連携による森林体験学習を実施しています。            今後も交流自治体等と連携して森林での環境活動などの機会を創出していきます。</p>	

- : 計画に反映する(内容の充実)
- : 既に盛り込んでいる
- : 意見・要望としてお聞きする

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
3 3	<p>【協働：環境意識の向上・環境教育の充実】</p> <p>脱炭素社会という切り口だけでなく、小中学校等での SDGs 教育と合わせて、縦割りのでなく、横断で実施できると良いと思う。目に見える効果や報酬(達成感や評価など)がないと、どうしても優先順位が低くなり、今の取り組み(ビニール袋を使わないなど)と変わらないと思う。</p> <p>例えば、学校・町会・地域住民が、イベントを通じて達成感が味わえるようなものが荒川区全体で開催できると良いと思う。あるいはエコポイントを拡大し、スイカなど既存のアプリを荒川区で活用するなど、脱炭素に取り組んでいることが見える化すると良いと思う。</p> <p>総じて、実効力ある、かつ、わかりやすく、参加しやすいイベントを展開されることを期待する。</p>	<p>【P80 協働：環境意識の向上・環境教育の充実】</p> <p>脱炭素社会への転換には、子どもから大人まで全ての世代の環境意識が向上し、省エネルギー行動が日常生活に定着することが必要であり、その行動等の見える化について取り組みを進めます。</p> <p>特に小中学生などの将来の世代の教育は重要であると考えており、教育委員会等とも連携し、環境教育の充実を図ります。</p> <p>加えて、ビオトープや区内の公園での生き物観察会など、緑や生物と触れ合うイベントを実施しており、今後も環境について考えながら気軽に楽しく参加できるイベントを実施していきます。</p>	
3 4	<p>【協働：環境意識の向上・環境教育の充実】</p> <p>1人1人が温暖化を食い止めるには何が出来るか考えられるように、子供の頃から温暖化について教育し、このままでは、やがて人間の住めない地球になることを教えていくことが必要だと思う。</p>		

### 第7章気候変動による影響への適応策

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
3 5	<p>【適応方針3 感染症等への適応】</p> <p>素案に賛成します。コロナ感染症、インフルエンザ予防のため雨水マス等への駆除剤の投入にて安心・安全をお願いします。</p>	<p>【P92 適応方針3 感染症等への適応】</p> <p>気温の上昇等により、感染症を媒介する生物の分布領域が変化する可能性があるため、これらの発生抑制等を推進していきます。</p>	

### その他

NO.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
3 6	<p>確認しました。温暖化だけではなく、住民の声を反映してより良い荒川区を目指して欲しい。</p>	<p>【P94 計画の推進に向けて】</p> <p>区民、事業者、区(行政)が協働して、本計画に掲げた事項を着実に実施していきます。</p>	